日産純正　MOMOスポーツステアリング（SRSエアバッグ付）取付要領書Ⅲ

日産自動車株式会社

作業の安全性と信頼性確保のため、取り付け、取り外し、
廃却処理は日産自動車販売会社にて実施願います。

〈取り付け上の注意事項〉

●取扱説明書は、必ずお客様にお渡し下さい。

●保証書は、裏面の記載事項に従い記入の上、お客様にお渡し下さい。
また、表紙（一番紙）は日産自動車株式会社へ作業記録簿と一緒に送付して下さい。

●SRSエアバッグ作業記録簿は、作業時に必要事項を記入して下さい。

●作業を始める前に以下の注意事項、及び各要領・手順の注意事項を参照の上、安全、確実に正しい取り付けを行って下さい。

●記載事項を守らなかったり、日産自動車販売会社で取付作業を行わなかったために発生した不具合については責任を負いかねる場合があります。

●取付作業を安全に行うために次のことを必ずお守り下さい。

「⚠危険」、「⚠警告」、「⚠注意」の意味は次の通りです。

⚠ 危険　安全のために必ず守っていただきたいこと。
守らないと直接死亡または重大な傷害につながります。

⚠ 警告　安全のために必ず守っていただきたいこと。
守らないと生命の危険または重大な傷害につながる恐れがあります。

⚠ 注意　安全のために必ず守っていただきたいこと。
守らないと傷害または事故につながる恐れがあります。

⚠ 危険

1.インフレーターの取扱いについて

インフレーターの取扱いの際はインフレーターの危険ラベルをお読みになってから行って下さい。
下記に危険ラベルの内容を記載します。

・強燃性の物質を含む。
・電気テスター等を用いての回路診断は、行わないこと。
・分解しないこと。

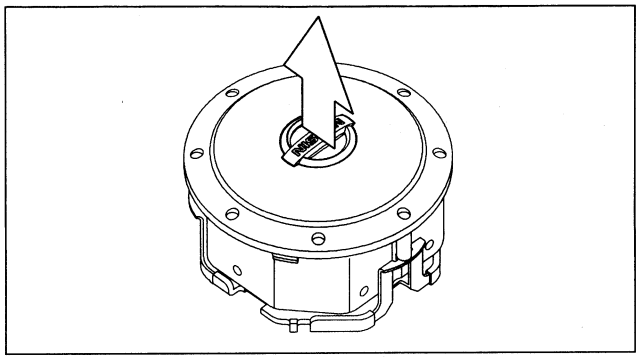
⚠ 危険

⚠ 警告

1.エアバッグモジュールの取扱いについて

1)エアバッグモジュール単体状態

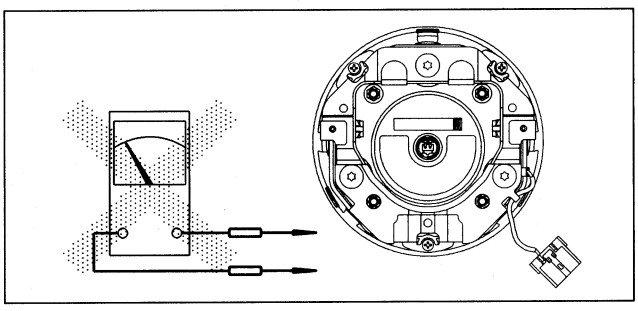
⑴エアバッグモジュールを置く時は、必ずパッド面を上側に向けて置いて下さい。且つ、 身体をパッド面の上側に向けないで下さい。(パッド面を下にして置くと、万一エアバッグが作動する様な事がある場合、エアバッグモジュール本体が体に当たる恐れがあり、危険です。)



⑵エアバッグモジュールの分解及びインフレーターの分解は絶対に行わないで下さい。

⑶インフレータカプラーへの異物(ドライバー等)の挿入は、行わないで下さい。
(静電気による作動防止)

⑷インフレータカプラーにサーキットテスターを当てての導通チェックは絶対に行わないで下さい。

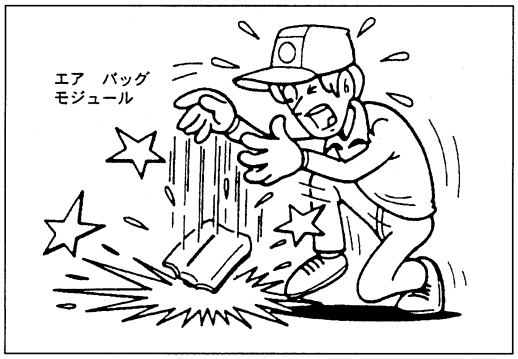


⚠ 警告（続き）

⑸エアバッグモジュールを90℃以上の高温環境に置いたり、オイル、グリース、洗い油、水等付着させないで下さい。（内部が損傷することがあり、システムの信頼性低下につながります）

⑹エアバッグモジュールにへこみ、割れ、変形があるものは使用しないで下さい。

⑺エアバッグモジュールには落下等による衝撃を加えないで下さい。衝撃を加えた場合には、新品キットと交換して下さい



2）車両取付状態

⑴エアバッグモジュールのチェック時にサーキットテスターを使わないで下さい。
（サーキットテスターの微電流による作動の防止）

⑵SRSエアバッグシステムに関するメンテナンス等の作業は、キースイッチをOFF位置にしてバッテリーからマイナス端子を外した後、3分間以上放置し、エアバッグセンサーユニット内の補助電流回路（コンデンサー）に蓄えられた電気量を自己放電させてから行って下さい。

2. SRSエアバッグ取り付け時のエアバッグモジュール、ステアリングホイールは必ず同一梱包されている部品を取り付けて下さい。類似品及び他のSRSエアバッグの部品を使用すると正常に作動しない恐れがあります。

3. 事故等により車両前部のボディー、バンパーに著しい変形や破損のある車両に当SRSエアバッグを取り付けないで下さい。正常に作動しない恐れがあります。

4.廃却について

⑴廃車又はエアバッグモジュールを廃却する場合は、必ずエアバッグモジュールを作動させて下さい。

⑵エアバッグモジュールは作動後30分以上は放置しておき、触れないで下さい。
（高温による火傷の防止）

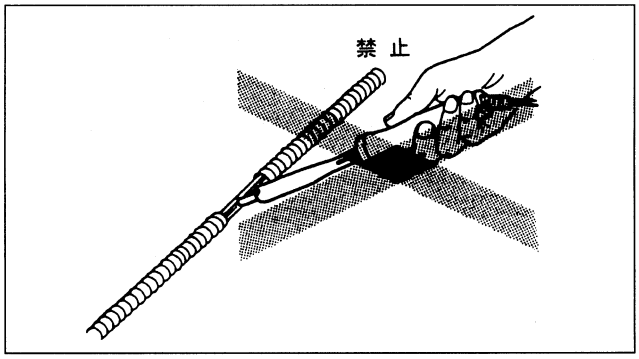
5.適用車種について

エアバッグモジュール、ステアリングホイールを他の車種には絶対に転用しないで下さい。

⚠ 注意

(1)作業時、身体の位置はエアバッグモジュールのパッド正面ではなく、極力エアバッグモジュールの側面方向で行って下さい。

(2)SRSエアバッグシステムのワイヤハーネス損傷、折損等が生じた場合ハンダ等で修理せずに、必ず新品と交換して下さい。



(3)エアバッグハーネスが噛込んだり、他の部品と干渉したりしない様に取り付けて下さい。

(4)エアバッグモジュール作動時の発生ガス(窒素ガス)は無害であるが、むせるので吸わないで下さい。

(5)本体取付要領書は、車両又はSRSエアバッグを廃却するまで保管して下さい。

目　次　　ページ

■1 取付完成図 …… 5

■2 構成部品 …… 5

■3 使用工具 …… 6

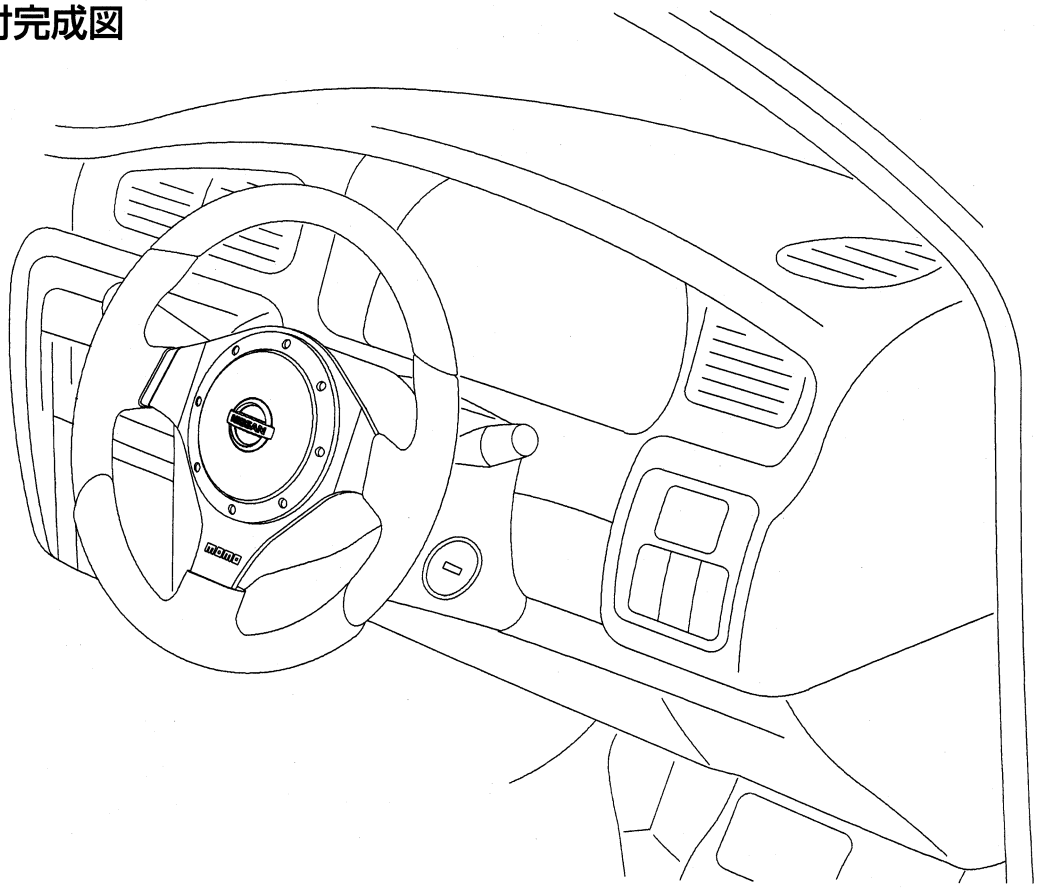
■4 取付前の確認事項 …… 6

■5 取付け手順 …… 7

■6 エアバッグモジュールの廃却 …… 10

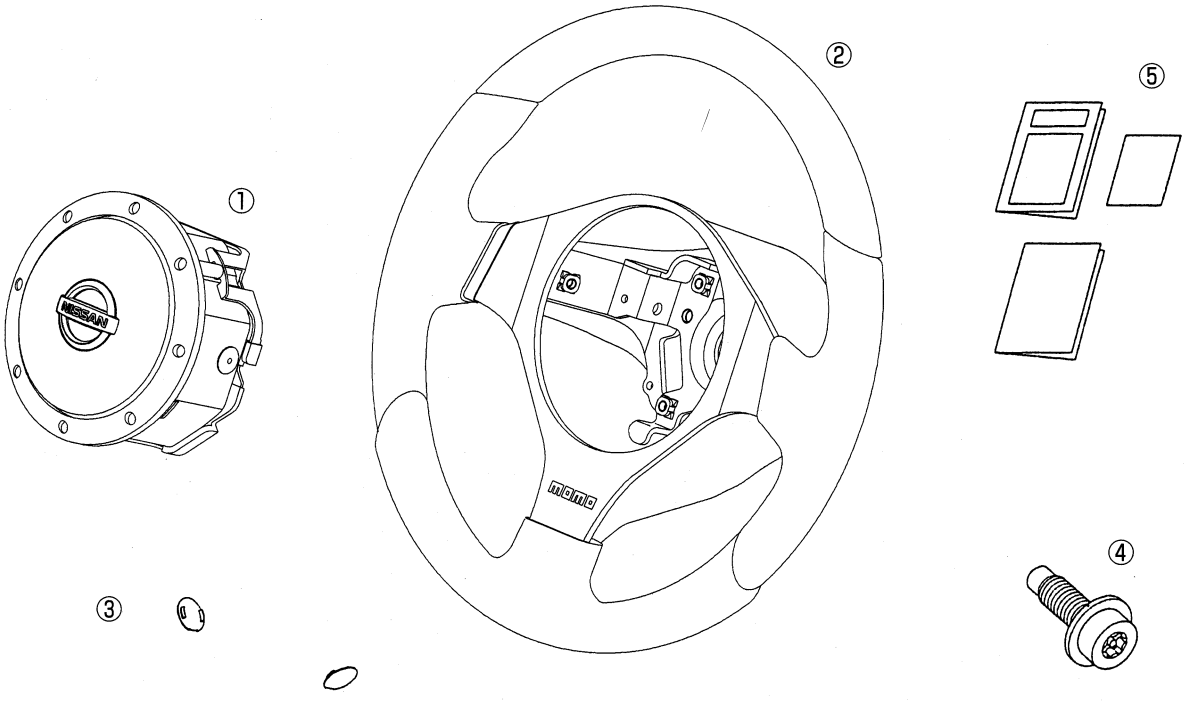
■7 SRSエアバッグ故障診断 …… 10

1 取付完成図



2 構成部品（作業を始める前に構成部品の確認を必ず行って下さい。）

No.	部品名称	数量	No.	部品名称	数量
①	エアバッグモジュール	1	④	特殊ボルト（M6）	2
②	ステアリングホイール	1	⑤	取付要領書・保証書類一式	1
③	サイドリッド　左右	2			



3 使用工具

一　般　工　具：ドライバー(マイナス)・ボックスレンチ(M 14用、サイズ:呼び19)
特　殊　工　具：M 6トルクス対応・ソケットタイプ(HT6199 TH30)一体式
又はドライバータイプ(HT6197 TT30)ビットタイプのエア式
又はドライバータイプ(HT6193 3000)手まわし式
ステアリングホイールプーラー(ST2718 0001)
作動用(展開)特殊工具：ディプロイメントツール(KV991 04600)

4 取付前の確認事項

次のような車両はSRSエアバッグ付きステアリングホイールが正常に作動しない恐れがありますので、取り付けないで下さい。

1.適用車種以外の車両。
2.車両前部に社外品のグリルガード・バンパー等を装着した車両。
（詳しくは日産自動車販売会社へご確認下さい）
3.日産純正品のグリルガード・バンパー等が車両前部に正しく取り付けられていない車両。
4.車両前部のボディー・バンパーに著しい変形や破損がある車両。
5.サスペンションや車両前部を改造した車両。

5 取付け手順

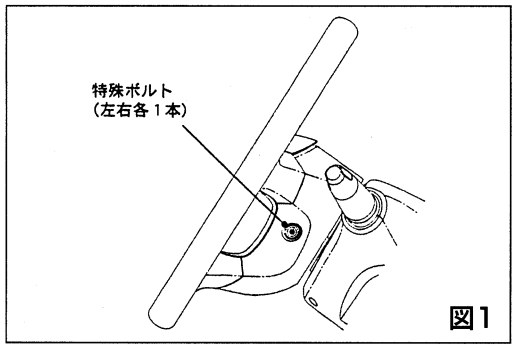


図1

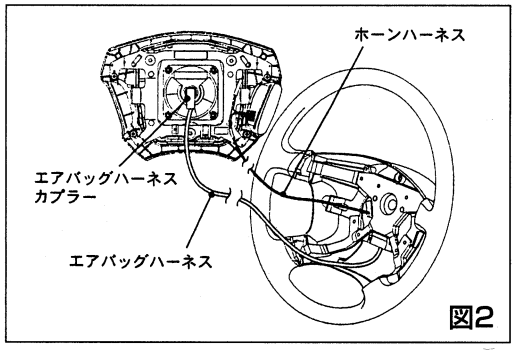


図2

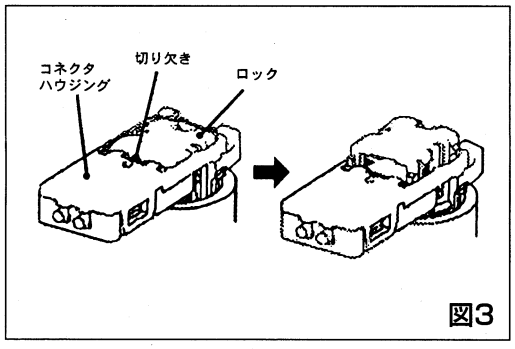


図3

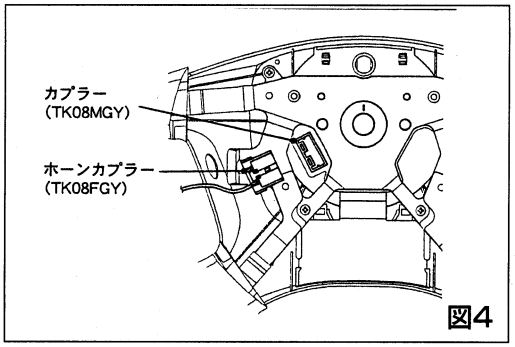


図4

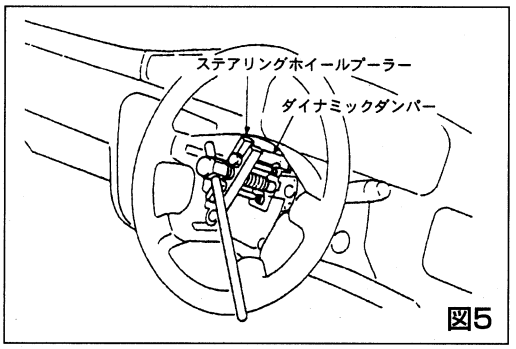


図5

1.取り付け前の準備作業

1)各車両のエアバッグモジュールの取り外し

(1)キースイッチをOFF位置にしてバッテリーからマイナスの端子を外し、3分間以上放置して下さい。

(2)ステアリングホイールのサイドリッド左、サイドリッド右を外して下さい。

(3)特殊工具を用いて、特殊ボルト(左右各1本)を外して下さい。(図1)

特殊工具:
M6トルクス対応:ソケットタイプ(HT6199 TH30)
ドライバータイプ(HT6197 TT30)
ドライバータイプ(HT6193 3000)

(4)エアバッグモジュールをステアリングホイールから引き出して取り外して下さい。(図2)

(5)エアバッグハーネスカプラーを外して下さい。(図3)

⚠ 注意

・エアバッグハーネスカプラーの脱着は、テープを巻いた精密ドライバーを切り欠き部に差し込み、ロックを引き上げてカプラーを外して下さい。

(6)ホーンカプラー(TK08FGY)を取り外してください。(図4)

⚠ 注意

・作業中はエアバッグモジュールの側方に身体をおいて作業して下さい。

2)各車両のステアリングホイールの取り外し

(1)前輪及びステアリングホイールを直進状態にして下さい。

(2)ステアリングホイールの取り付けナットを外して下さい。

(3)ステアリングホイールプーラー(特殊工具:ST2718 0001)を必ず使用して、ステアリングホイールを取り外して下さい。(図5)

⚠ 注意

・スパイラルケーブルからのエアバッグハーネスカプラーを破損しないように注意して下さい。

・詳細は各車種の整備要領書「ステアリングホイールの取り外し」の項を参照して下さい。

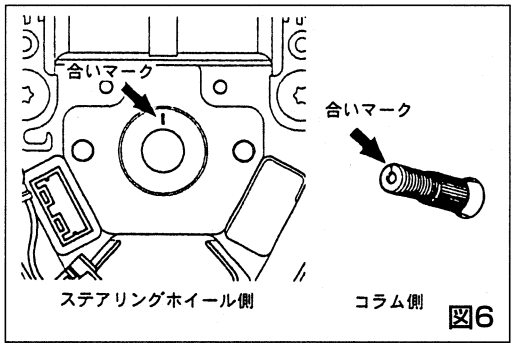


図6

2.MOMO製ステアリングホイールの取り付け

⑴ステアリングホイール②の合いマークを合わせて直進状態を確認し(図6)、コラム本体に取り付け、取り付けナットを規定トルクで締め付けて下さい。

締め付けトルク(N-m{kg-m}):29～39{3～4}

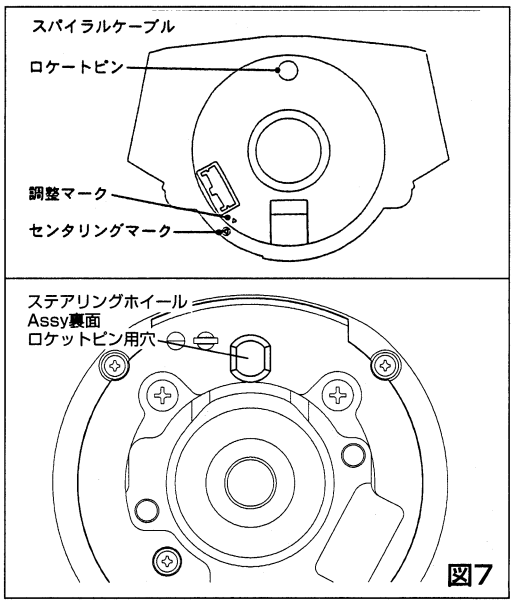
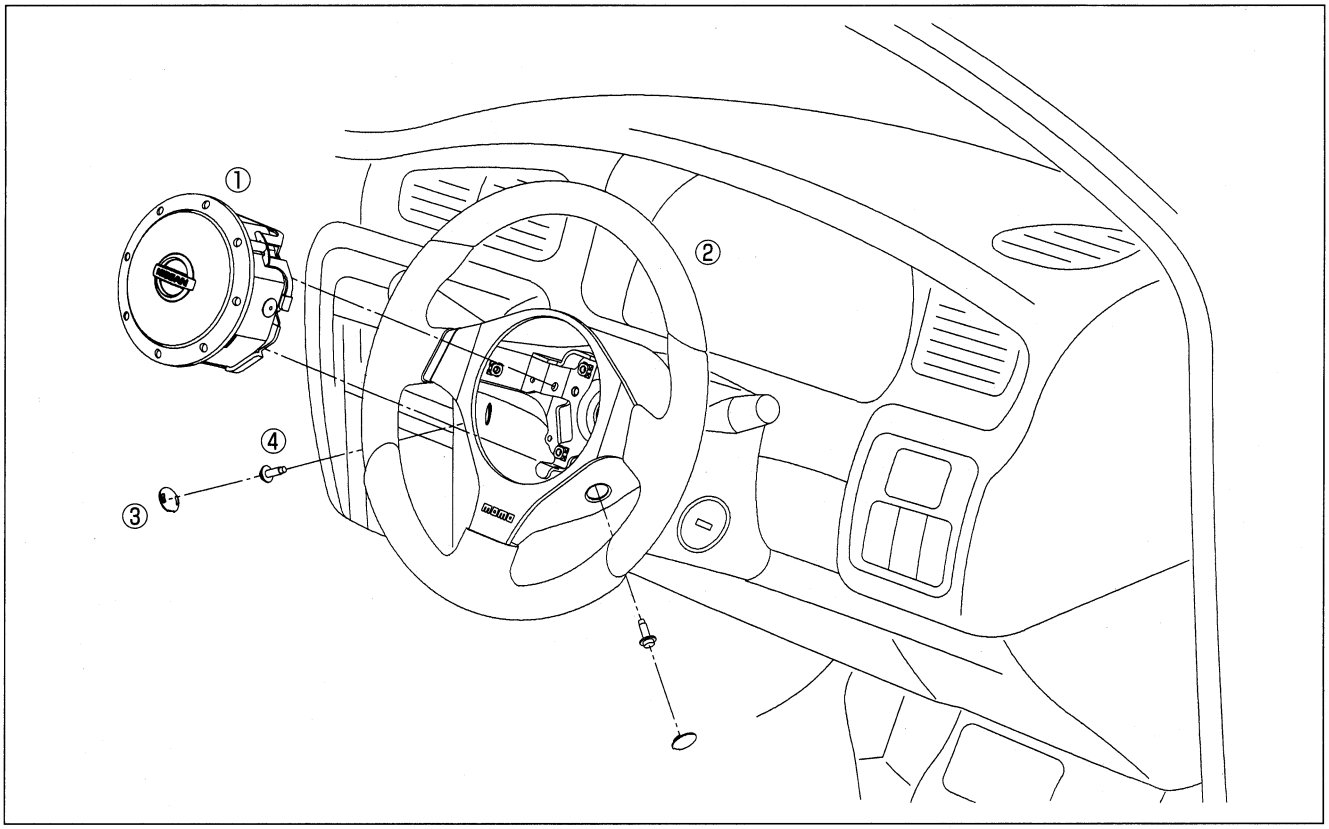


図7

⚠ 危険

- ステアリングホイールの取り付けは、前輪の向きが直進状態で、スパイラルケーブルが必ず中立位置にあることを確認し、スパイラルケーブル真上のロケートピンとステアリングASSY裏側のロケートピン穴が一致する位置で取り付けて下さい。(図7)
- 中立位置(左図参照)……スパイラルケーブルを右回しに巻締まるまで軽く回し、次に逆回し(約2.5回転)をしてセンタリングマークと調整マークを合わせて止めて下さい。(サービス部品が、中立位置を合わせた状態でストッパーで固定されているため、ストッパーを外したらそのままステアリングホイールを取り付ける事もできます)
- スパイラルケーブルをむやみに空回しさせないで下さい。また、巻締まり以上に回転させないで下さい。(ケーブル切れとなります)

3.MOMO製エアバッグモジュールの取り付け



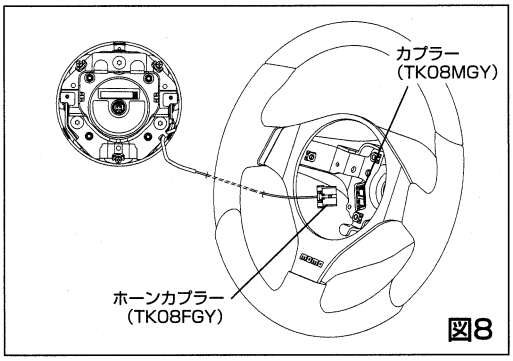
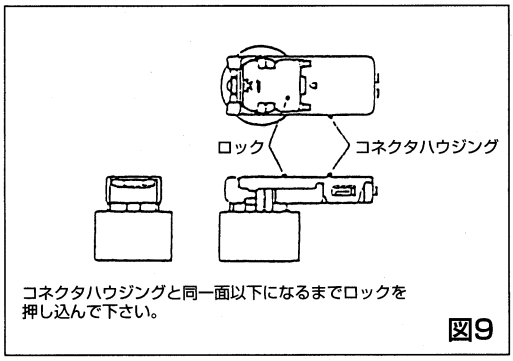


図8



コネクタハウジングと同一面以下になるまでロックを押し込んで下さい。
図9

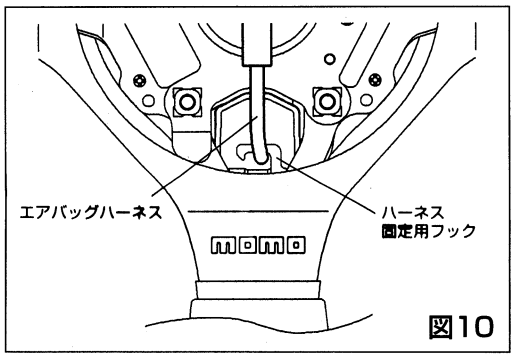


図10

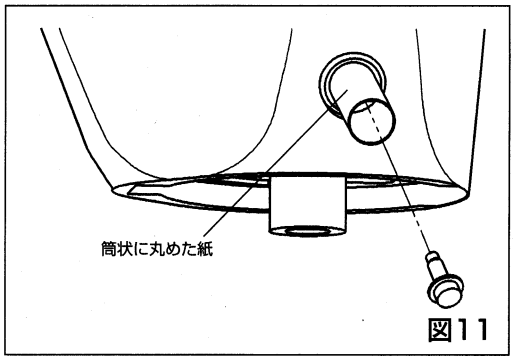


図11

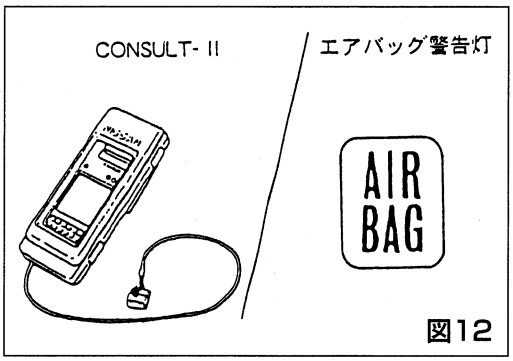


図12

(1)エアバッグモジュール①内のホーンカプラー(TK08FGY)を、ステアリングホイール②内のスパイラルケーブル左部のカプラー(TK08MGY)に接続して下さい。(図8)

(2)エアバッグハーネスカプラーをエアバッグモジュール①裏面中央のカプラーに接続して下さい。

⚠ 注意

- エアバッグハーネスを無理に引っ張らないようにして下さい。
- ステアリングホイール内部のエッジでエアバッグハーネスを傷付けないようにして下さい。
- エアバッグハーネスカプラーの取り付けは、ロックを引き上げた状態で取り付け、ロックを確実に押し込んで下さい。(図9)

(3)スパイラルケーブルからのエアバッグハーネスを、ハーネス固定用フックに固定して下さい。(図10)

(4)エアバッグモジュール①をステアリングホイール②にセットして下さい。
※ステアリングホイールのスポーク部表面を傷付けないようにして下さい。

⚠ 注意

- エアバッグハーネスの噛み込みがないことを確認して下さい。

(5)付属の特殊ボルト④(左右各1本)を規定のトルクで締め付けて下さい。
※特殊ボルトを締め付ける際、ボルトの脱落防止の為、紙等を筒状に丸めLID取り付け穴に入れて作業して下さい。(図11)
M6トルクス:ソケットタイプ(HT6199 TH30)
ドライバータイプ(HT6197 TT30)
ドライバータイプ(HT6193 3000)
締め付けトルク(N-m{kg-m}):4.9～13.7{0.5～1.4}

⚠ 警告

・一度取り付けた特殊ボルトは再使用できません。緩みによる脱落の恐れがあります。

(6)付属のサイドリッド③を取り付けて下さい。

(7)バッテリーの－端子を取り付けて下さい。

(8)作業終了後、キースイッチをON位置にしたとき、エアバッグ警告灯が約7秒間点灯し、その後消灯することを確認して下さい。

(9)CONSULT－Ⅱ又は、車載の自己診断機能を使ってSRSエアバッグシステムが正常か確認して下さい。(両席SRSエアバッグシステム車のみ)

⚠ 注意

・作業中は、エアバッグモジュールの側方に身体をおいて作業してください。
・衝突によりSRSエアバッグが作動した場合は、ステアリングホイールも交換して下さい。

4.交換後の車両標準装備エアバッグモジュールの処理

・ステアリングホイール、エアバッグモジュールは、生涯管理しており、MOMOスポーツステアリングを交換した車両標準装備のエアバッグモジュールは、作動させてから廃却処理して下さい。

6 エアバッグモジュールの廃却

⚠ 注意

・エアバッグモジュールを廃却する場合及び車両を廃車する場合は、必ずエアバッグモジュールを作動させてから丈夫なビニール袋に入れて廃却して下さい。絶対に未作動の状態でエアバッグモジュールを廃却しないで下さい。
・詳細は各車両整備要領書の「エアバッグモジュールの廃却」の項を参照して下さい。

7 SRSエアバッグ故障診断

⚠ 注意

・故障診断でシステム回路のチェックを行う場合は、エアバッグ警告灯(LED)による車載の自己診断機能を利用するか、電子システム診断テスター・CONSULT-Ⅱを用いて行って下さい。(両席SRSエアバッグシステム車のみ)
・絶対にサーキットテスターを使わないで下さい。(サーキットテスターの微電流による誤作動防止のため)

・詳細は各車両整備要領書の「SRSエアバッグ故障診断の項」の項を参照して下さい。